現場密着リポート

ともに味わう 生みの苦しみ、達成の喜び

―ワークショップ「グループ知識創造技法」

参加者：（左から）木村 慎太郎さん、梶本 公さん、多久和 敦さん
講　師：本学非常勤講師　三村 修さん
会　場：本学知識科学研究科　コラボレーションルーム（2）

昨年の９月末以来、本教育プログラム最多の開催回数を重ねるワークショップ「グループ知識創造技法」。集団的知識創造の基本スキルを、実際に体験しながら習得してもらおうというものです。編集部では、7月12日（土）・13日（日）に行われた第11回の様子を密着取材してきました。

今回の参加者は３名、いずれも昨年入学した知識科学研究科の博士前期課程学生。「何とかこの技法を身につけたい！」と、第1回から可能な限り参加し続けている頑張り屋さんたちです。

1日目 7/12（土） 9:00～18:00

■座学「取材の心得」

いくら完璧に知識創造の技法を習得しても、その元となるデータがいいかげんではお話になりません。定性的な情報を、いかに集め、いかにデータ化するか。先人が極めたその心得について、資料を用いた座学で学びます。

■グループワーク「評価の技法」

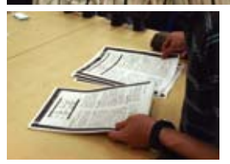
前回までに参加者の一人・多久和さんが作成した「心と時間に余裕を持って行動したい」というテーマの図を使って、評価の技法を学びます。図のなかで大事だと思うところに各自投票し、その集計結果をランク付けして図に書き込みました。これは、これからいかに行動すべきかの決断に有効な手法です。

やりながら、気になったこと、思いついたことなどは、どんな些細なことでもどんどんメモ。多久和さんは、このワークショップで習ったメモ法を普段から実践するようになりました。

参加者の関心に沿った書籍を、いろいろ持ってきてくださいました。ワークショップのなかでも随時紹介。

■グループワーク「文献からの取材」

書籍や論文など、文献から情報を集め、データ化する練習です。読み上げながら、大事だと思われることを確認。一番言いたいこと、意味の中核をメモしていきます。この日はこれを延々3時間以上。



配布されたのは、参加者の木村さんが研究している「要求工学」に関する専門誌の特集記事のコピーですが…なぜか最後のページが一番上に。ここで資料を読むときのコツが伝授されます。

最初にサッと全体に目を通してしまうんだ。こうなっていれば、順序を並び替えながら、必然的に全ページに目を通すことになるだろう。それは一瞬でも不思議と頭のどこかに残っているもので、いきなり精読するよりも、すーっと内容が入ってくる。

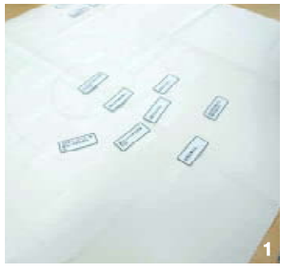
2日目 7/13（日） 9:00～18:00

■グループワーク「手順化」

知識創造技法を使って、大量の作業をいかに進めるか手順の計画を立てる方法を学びます。
ネタはみんなになじみのある「宴会」です。

以前企業に勤めている人にこの方法を教えたら、問題が２つあると言った。ひとつは、「仕事に名前をつけなければならない」ということ。もうひとつは、「部署間で同じ言葉を異なる意味で使っている」ということ。逆に言えば、この手順化をうまく用いれば、グループでの仕事を円滑に進められるようになるということだ。

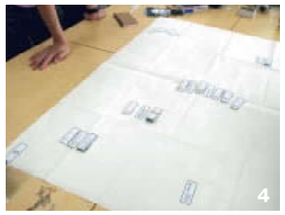
手順が近いものをグループにし、そのグループを表す「表札」を作って束にしていきます。



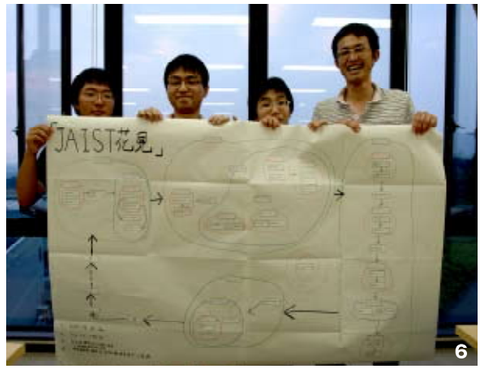
この「表札」は、グループの中身が感じられるような、本質を表す言葉でなければなりません。何とか良い表札をつけようと、必死でデータと向き合います。できたら、お互いにチェック。

さらにグループにして表札をつけるということを繰り返します。どちらを先にやるべきか、いろいろな方法・考え方があって意外に難航…。

だいぶまとまってきました。



図解化の工程。これまでと逆の手順で広げ、マジックで矢印などを書き入れていきます。模造紙２枚を使った巨大な作品です。



完成！みんなで記念撮影。すがすがしい笑顔です。すっかり日も暮れました。

ときには苦しくても、データとまっすぐに素直に向き合うことで新たな知を生み出さんとするその営みは、まるで知識創造の道を究めるための道場のようでした。今回は経験者のみの参加でしたが、もちろん初めての方も大歓迎。開催予定は随時ウェブサイトに掲載しています。JAIST生のみなさん、参加しないと損ですよ！

参加者の声

尊敬できる人の考え方や技を学びたい、身につけたいと思ってこの知識科学研究科に入学したのですが、このワークショップはまさしくそれ。スキルアップを実感しています。

梶本 公さん　*Tadashi Kajimoto*

机に向かって悩んでいるだけでは、前に進むことができません。この技法は、私に作業を与えてくれる。それを一つひとつ片付けていくうちに、いつの間にか物事を進めることができているのです。

木村 慎太郎さん　*Shintaro Kimura*

これ（1日目「評価の技法」で用いた図）を作っているときは苦しかった。元のデータをごまかして書くと、次のステップに進めないんです。でも、自分についてよくわかりました。先生とみんなのおかげです。

多久和 敦さん　*Atsushi Takuwa*

講師より

本学非常勤講師　三村 修
Shu Mimura

「グループワークのやり方がわからない」「メモができない」「テーマが決められない」という声を聞く。知識創造技法はデータから知識を創造する方法であって、一番大事なのはその元データをどう収集するかということ。最近はもっぱらそこに力をおいたワークを行っている。本当は基礎教育でやるとよいのだけどね。方法論がわかれば、自分流にいろいろな場面で使っていくことができる。

先生の前だとなかなか「わからない」と言いづらいようだが、このワークショップでは、わかったふりをしなくてよい。「わからない」と言える場。何を言ってもいい「広場」にしたい。わからないことをわかるようにするのが、このワークショップの役割でもあるのかもしれないね。